

チャネルキャットフィッシュ捕獲における「釣り」の有効性

三枝 仁

1. 目的

チャネルキャットフィッシュの拡散を防止するうえで、本種を効率よく捕獲する手法を検討する必要がある。しかし、本県で捕獲が確認されている場所は、琵琶湖だけでなく瀬田川や大戸川といった河川にも及んでおり、こうした河川や沿岸の浅水域では、その水深や地形により漁船や漁具の使用が困難な場所も多い。このことから、大掛かりな漁具を使用しない捕獲手法として、「釣り」の有効性を検証した。

2. 方法

調査は、2018年6月27日に大津市黒津地先の瀬田川において17時55分から20時30分までの間に実施した。調査には、釣竿とリール、中通し錘と釣針1本を使った、いわゆる「ぶっこみ釣り」仕掛けを用い、餌としてスルメイカの切り身および塩サバの切り身、アメリカザリガニの尾部を使用した。釣り場には調査員3名を配置し、それぞれ2セットの釣竿を用いて釣獲を試みた(図1)。

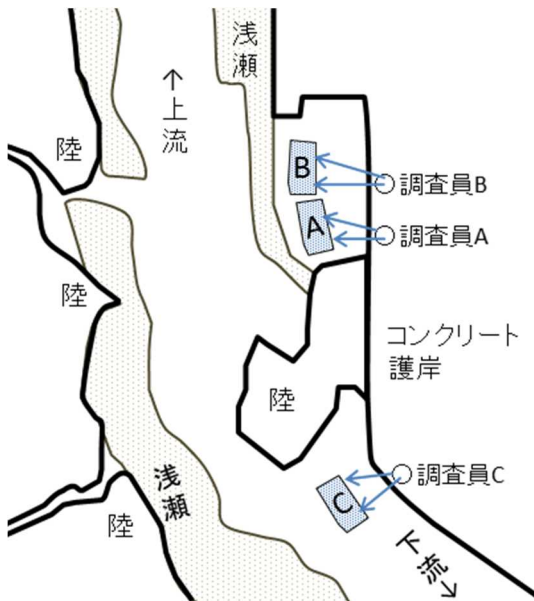


図1 調査員およびポイントの配置図

なお、仕掛けの投入やエサ交換のタイミングなどは現場の調査員の判断に委ねたが、仕掛け投入時刻と回収ないしは釣獲の時刻等を竿ごとに記録した。

3. 結果

本種が最も多く釣獲できたのはポイントAで7尾、次いでBの3尾、ポイントCでは釣果が無かった。エサ別の釣果では、サバによる釣果が最も多く7尾で、アメリカザリガニでは3尾、イカでの釣果は無かった(表1)。

また、仕掛け投入から釣り上げるまでに要した時間を調べたところ、本種の釣獲は仕掛け投入後15分以内に集中しており、「釣り」によって本種を効率よく捕獲できる可能性が示唆された(図2)。

今回の調査では、ポイントや餌によって釣果に偏りがあったことから、本種は摂餌する場所を選び、気に入った餌があれば速やかに食い付いているものと推察された。したがって、「釣り」により本種を捕獲する上では、仕掛け投入後20分程度で投入場所を変えてみることや、複数種類の餌を準備しておく、などの工夫により効率が増すものと考えられた。

表1. ポイントごとの餌別仕掛け投入回数と釣獲数

	サバ	ザリガニ	イカ	計
ポイントA	4/5	3/6	0/3	7/14
ポイントB	3/9	0/1	0/1	3/11
ポイントC	0/8		0/4	0/12
計	7/22	3/7	0/8	10/37

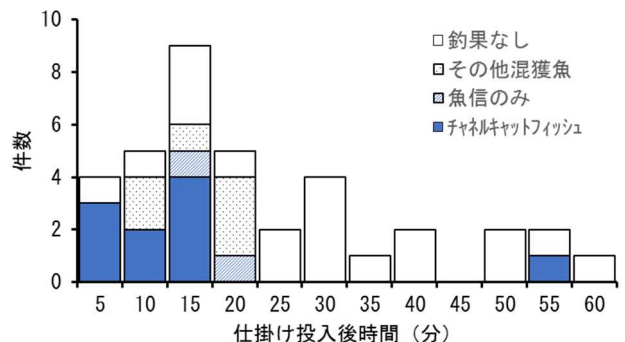


図2 仕掛け投入から釣獲までに要した時間